

もみじ通信

春のお彼岸とは・・・

(彼岸入り) 3月18日 (水)

(お中日) 3月21日 (土)

(彼岸明け) 3月24日 (火)



『彼岸』はサンスクリット語の(波瀾密多)から来たものと言われ、煩惱と迷いの世界である

【此岸(しがん)】にあたる者が、【六波羅蜜】の修行をする事で(悟りの世界)すなわち『彼岸』の境地へ達することが出来るというものです。

太陽が真東から上がって、真西に沈み昼と夜の長さが同じになる春分の日を挟んだ前後3日の計7日間を『彼岸』と呼び、この期間に仏様の供養をする事で極楽浄土へ行く事が出来ると考えられていたのです。

《お彼岸を迎えるには次のような準備をします》

- お仏壇・仏具の掃除
- お墓の掃除
- 供花・お供え物

(春は牡丹の花にちなんで牡丹餅と言います)

(秋は萩の花にちなんでおはぎと言います)



知って納得 仏事のQ&A

Q、お仏壇の中の古い位牌はどうしたら良いか教えてください。

A、お盆やお彼岸の時に仏壇のお掃除をされたと思います。その際ご先祖様の大事なお位牌を持ち上げたら下の台が外れ落下。実際あまり気持ちの良いものではありませんが、結構経験のある方は多いように感じます。

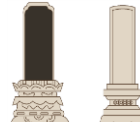
戦前戦中のお位牌はご近所の大工さん等が木片に台をつけ、立つように細工した物が多く、漆や金箔を施した物は高級品だったようです。一度作れば作り換える物ではありませんので気が付けば虫に食われている事もあるという訳です。



さて、実際どうするのかという・・・

そのお位牌がどのぐらい前に亡くなられたご先祖様のお位牌なのか調べる必要があります。それは、お位牌は、三十三回忌か五十回忌で弔い上げ(供養)をして先祖代々のお位牌に合祀されるのが一般的とされているからです。三十三回忌を過ぎていけば、繰り出し位牌に納めるか過去帳に記し、古いお位牌は弔い上げをした後ご住職にお預けする事になります。しかし、考えは人それぞれ、先祖代々と一緒にせずにお位牌として残しておきたいと、新しくお作りになる場合もございます。

『当社ではお仏壇や他のお位牌とのバランスを考え、ご購入の的確なアドバイスをさせて頂きます。昔から「触らぬ神に・・・」と申しますが、しっかりとしたお位牌をご用意し、ご先祖様にも気持ちよくおすごし頂けるようにお手伝いをさせて頂きます。



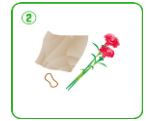
～お花の豆知識～



切り花を長持ちさせる方法



バケツや大きめの花瓶等、水がたっぷり入る容器を用意し七分目まで水を入れます



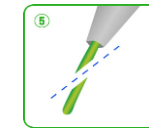
切り花のラッピング・輪ゴムなど全て外します



お花全ての茎を下端で揃えて新聞紙で包みます



茎が下から10～15cmほど出るよう新聞紙を折って調整しながら巻きま



下に出た茎をよく切れるハサミで斜めにカットします
※花用のハサミがない場合はキッチンばさみでもO.K



初めに用意した容器にお花を入れます。勢いよく入れるとお花に水が上がりやすくなります。涼しい場所に1時間ほど置いてお花がシャキッとしたら花瓶に生けて飾りましょう。

《雑菌の繁殖》

冬場に比べ夏場はすぐに雑菌が増え水がすぐ腐敗してきます。毎日水を替えるときに塩素系(キッチンハイター)を花瓶に数滴(200ccに付き1滴～3滴)入れると雑菌の繁殖が抑えられます

※洗濯用のハイター(漂白剤)は、絶対に使わないで下さい

株式会社あそセレモニー 呉市中央6丁目4-6
葬祭会館もみじホール (0823) 24-6044
<http://www.momiji-hall.com> もみじホール 検索